農業の新しい技術

No. 257(平成６年３月)
分類コード　02－11
熊本県農政部

暖地平坦地帯のリードカナリーグラスに対する窒素施用適宜

農業研究センター　畜産研究所　飼料生産利用部

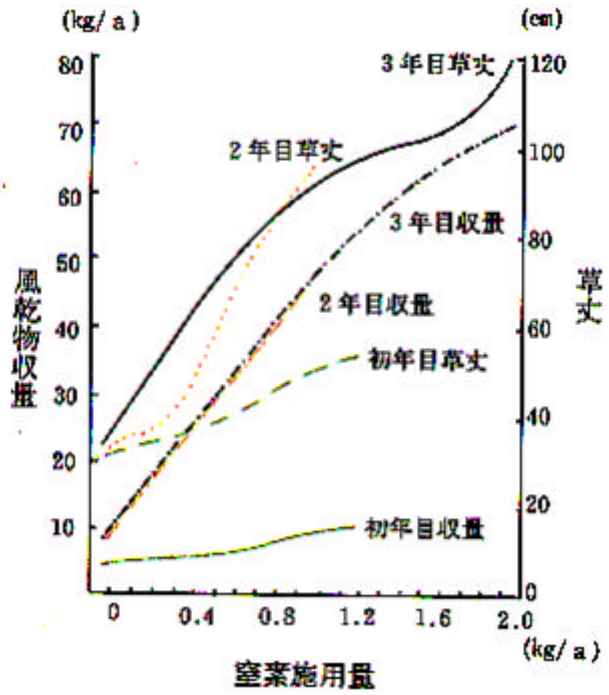
研究のねらい

近年、トウモロコシーイタリアンライグラス体系における一時期への労働集中を避けるために、暖地平坦地帯においてもリードカナリーグラスの栽培が散見されるようになってきた。本草種は寒地型牧草に属することから、暖地平坦地帯における研究はほとんどなく、平坦地帯における肥培管理技術の確立がまたれている。

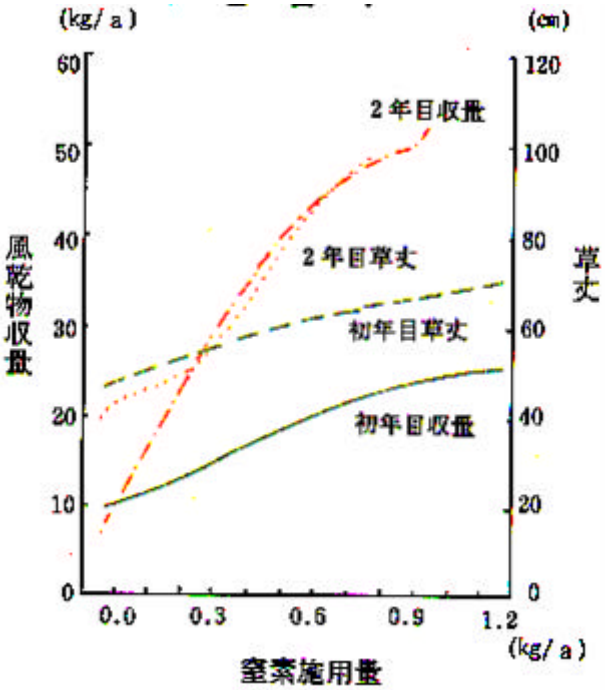
ここでは、暖地平坦地帯に導入されたリードカナリーグラスへの窒素施肥が草生維持　及び生産性に及ぼす影響について明らかにした。

研究の成果

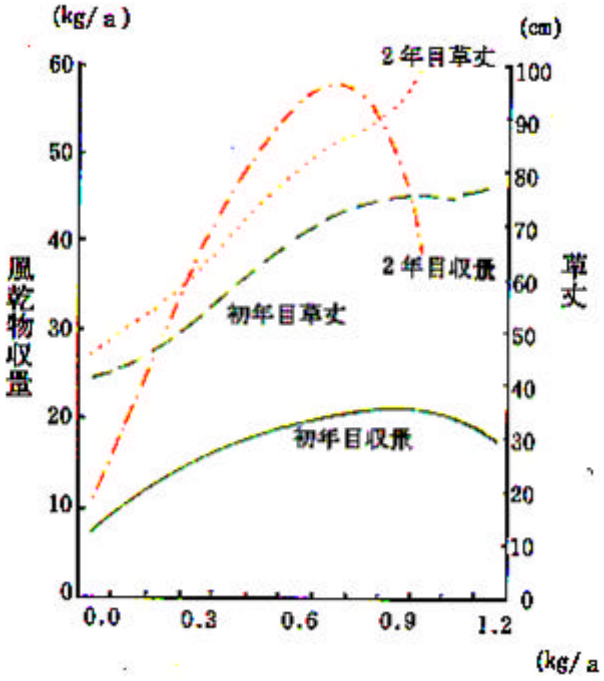
1. 播種翌年の春先は雑草が繁茂することが多いので4月上・中旬に掃除刈を実施した後、一番草用の追肥を行う。
2. 一番草に対する窒素施用量は 1.2 ～ 1.6kg/a 程度を 3月下旬頃施用すると 5月下旬の出穂期始め刈りで風乾物として 60kg/a 程度の収量が得られ、雑草の侵入も小さい。
3. 二番草に対しては 0.8~0.9kg/a 程度を施用し、7月上中旬頃に、草丈 1m (出穂始め)で収穫すると50kg/a 程度風乾物収量が得られる。
4. 三番草に対しては 0.7~0.8kg/a 程度の窒素を施用し、草丈 80～ 90 cm もしくはサビ病の発生を認めた時期 (8月下旬～ 9月上旬頃)に刈り取る。この場合、 6kg/a 程度の風乾物収量が得られる。
5. 四番草に対しては、 0.6~0.7kg/a 程度の窒素を施用し、 11月上旬～ 11月下旬に刈り取る。この場合、草丈は 60cm 程度となり、35kg/a 程度の風乾物収量が得られる。
6. 以上のような施肥管理を行うと年間に風乾物として 200kg/a 程度の収量が得られ、少なくとも3年は維持可能であるが、必要以上の多肥を行うと草生が悪化し、維持年限が短くなるので注意する。



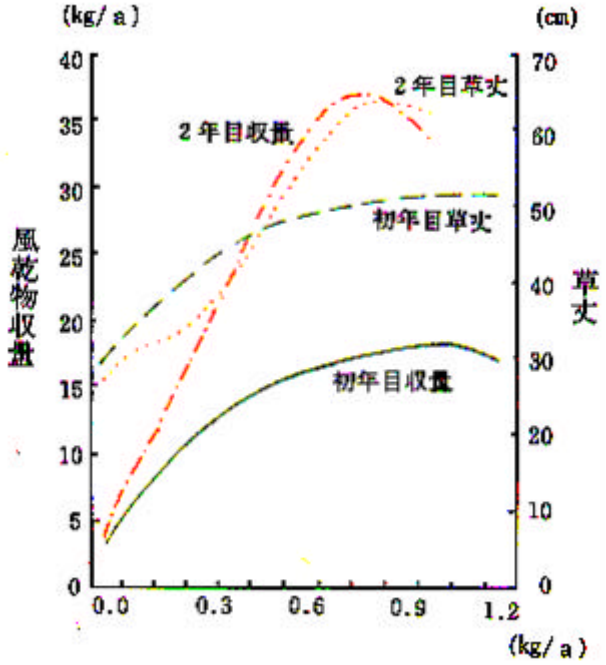
（1番草）



（2番草）



（3番草）



（4番草）